zoetis BRDC サポート情報 vol.5

持続型抗菌剤の新しい活用法のご提案

長期持続型抗菌剤のメリット

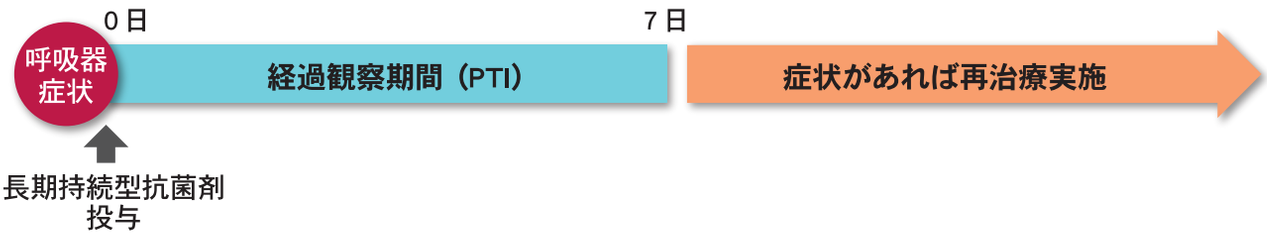
抗菌剤治療により呼吸器症状が改善しても、肺組織はダメージからすぐには回復しません。そのため、再感染のリスクが高く、肺炎が再発するケースがあります。
長期持続型抗菌剤はこの期間をカバーし、1回投与で治療を完了し、さらに再発を軽減します。

長期持続型抗菌剤の新しい活用方法

Post Treatment Interval (PTI):治療後の経過観察期間

- **長期持続型抗菌剤投与後、有効濃度が維持されている間は経過観察期間とする。**
- **その期間、基本的には症状が確認されても様子見とし、追加治療は実施しない。**

例えばPTI=7日間と設定すると・・・



米国では以下のポイントを考慮し、PTIの理論を実践しています。

- 回復に向かっている牛を追いかけ、保定し、繰り返し治療すること自体が大きなストレス。不必要な治療になっているのでは？適切な回復期間を設けることが必要

PTIの実践により期待できるメリット

- **再治療頭数・回数の減少 ➡ 労働コストの削減**
- **再治療費用の減少 ➡ 治療コストの削減**
- **薬剤総使用量の減少 ➡ 耐性獲得機会の最小化**

（参考文献：Vet Clin Food Anim 31 (2015) 441–453 ）

ゾエティス・ジャパン株式会社
〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-22-7 TEL. 03-5309-9224 FAX. 03-5309-9914